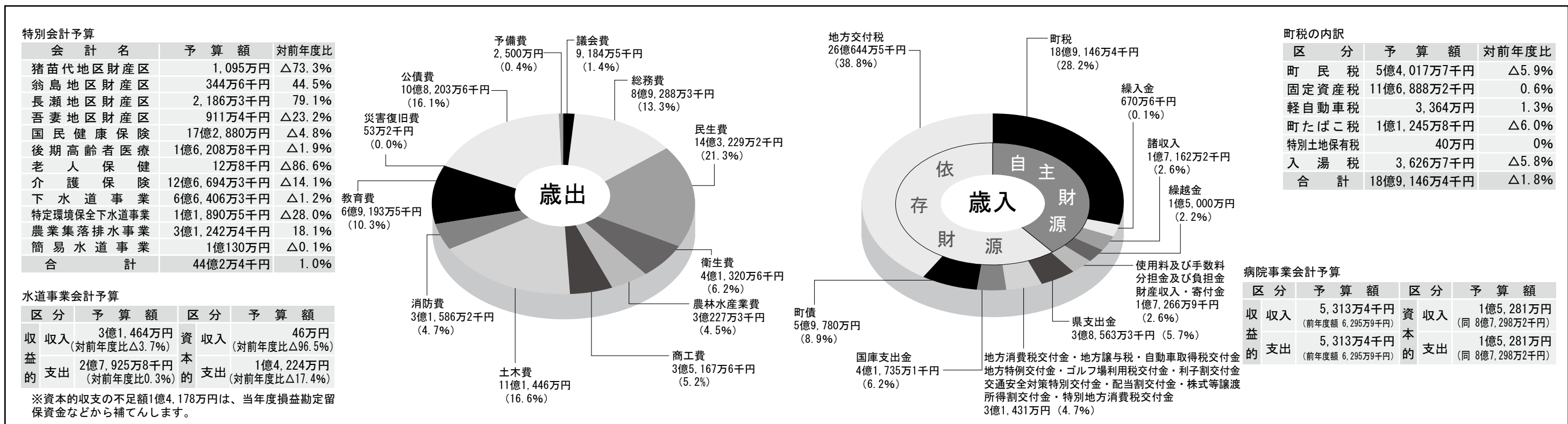


一般会計予算は 67 億 1,400 万円



健全で安定した町の財政を目指した二十二年度の予算が決まりました。一般会計当初予算の総額は、六十七億一千四百万円と、前年度に比べ一億五千万円(2.3%)増加しています。

全国的に厳しい財政状況の中、予算編成にあたっては財源を効率的に配分し、さまざまな施策を進めます。二十二年度予算のあらましについてお知らせします。

一般会計 歳入

歳入は大きく「自主財源」と「依存財源」の二つに分けられます。

「自主財源」とは、町が自主的に確保することができる財源のことです。町の主要な財源の一つである町税をはじめとして、使用料、手数料、分担金、負担金や財産収入などが挙げられます。

一般会計の主要な財源の一つである町税は十八億九千四百六十四万四千円(前年度比三千五百五十三万四千円の減)で歳入全体の28.2%を占めています(内訳は上の表のとおり)。このほか、財政調整基金等からの繰入金が六百七十万六千円(前年度比一億三千六百四十九千円の減)、雑収入などの諸収入が一億七千六百六十二万二千円、

一般会計 歳出

歳出では、厳しい財政状況の中、限られた財源の効率的な活用に努めます。行財政改革の推進により事務事業を徹底的に見直し、経費の節減・合理化を進める一方、重点施策を選別して編成しました。

歳出の21.3%を占める民生費は社会福祉や児童福祉などに使われる費用で、十四億三千二百二十九万二千円(前年度比二億二千三百二十五千円の増)となっています。これに続くのが、町道や町営住宅の整備・管理、除雪などの費用のための土木費で、全体の16.6%、十一億一千四百四十六万四千円(前年度比三千百九十九万一千円の減)。

その次に続くのが、借入金償還のための公債費で、全体の16.1%、予算額は十億八千二百三十三万六千円(前年度比七千五百二十九万七千円の減)以下、町の全般的な管理に使われる総務費が、全体の13.3%、八億九千二百八十

前年度からの繰越金が一億五千万円など、自主財源の合計は二十三億九千二百四十六万一千円で、歳入全体の35.7%となっています。

「依存財源」とは、国や県から交付される財源のことです。地方交付税、国庫支出金、県支出金、町債などが挙げられます。

依存財源では、全体の38.8%を占める地方交付税が、二十六億六千四百四十五万五千円(前年度比九千四百四十四万四千円(4.7%)の減)、町債は五億九千七百八十八万五千円(前年度比一億五千七百二十万円の増)となりました。

なお、町債の借り入れに当たっては、交付税措置のある有利なものを選ぶなど、負担が軽減できるように努めました。このほか、国・県の負担金や補助金、地方消費税交付金など、依存財源の合計は四十三億二千五百五十三万九千円となり、歳入全体の64.3%

そのほか衛生費が、四億一千三百二十万六千円(前年度比四百九十九万八千円の減)。商工費が、三億五千六百七十七万六千円(前年度比二百五十万九千円の減)。消防費が三億一千五百八十六万二千円(前年度比一千二百五十七千円の増)。

農林水産業費が、三億二千二百二十九万二千円(前年度比二億二千三百二十五千円の増)。議会費が九千八百八十四万五千円(前年度比四十七万五千円の増)などとなっています。

22年度の主な事業

▽鶴峰住宅建設事業費 1億7,207万6千円

▽地域活力基盤創造交付金事業費 7,469万円

▽亀ヶ城公園整備事業費 5,967万6千円

八万三千円(前年度比三千七百七十四千円の増)。幼稚園や小・中学校、生涯学習、スポーツ振興などに使われる教育費が、全体の10.3%、六億九千九百九十三万五千円(前年度比三百五十四万五千円の減)。

そのほか衛生費が、四億一千三百二十万六千円(前年度比四百九十九万八千円の減)。商工費が、三億五千六百七十七万六千円(前年度比二百五十万九千円の減)。消防費が三億一千五百八十六万二千円(前年度比一千二百五十七千円の増)。

農林水産業費が、三億二千二百二十九万二千円(前年度比二億二千三百二十五千円の増)。議会費が九千八百八十四万五千円(前年度比四十七万五千円の増)などとなっています。